

事務事業名	老人研修事業			担当	教育委員会 自然教育センター			
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり			電話番号	0285-83-1277		
施策名	5	高齢者の自立と社会参加の支援			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠	真岡市老人研修センターの設置、管理及び使用条例				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 S60 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	9. 自然教育センター費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	高齢者の健康維持、教養の向上、及び生きがい対策として、市内老人クラブ会員を対象に研修を実施する。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 26年度実績 市内老人クラブを7地区21ブロックに分けて、年間各5回の計画に基づき研修を開催。合計105回計画し、105回実施。学区を同じくする児童・生徒とともに活動する「ふれあい活動」やスポーツ、レクリエーション、講話、DVD鑑賞、創作活動、施設見学等を行った。 27年度計画 7地区20ブロックで計100回を計画している。事業内容は基本的には、26年度と同じであるが、一部新規メニューを取り入れる。	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	
ア：年間研修回数			105	104	105	105	100	
イ								
ウ								
エ								
オ								
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市内老人クラブ会員	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	
ア：市内老人クラブ会員数			3,261	3,141	2,893	2,759	2,638	
イ								
ウ								
エ								
オ								
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 高齢者の健康の維持・増進、教養の向上を図る。	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	
ア：参加者数（延べ）			2,413	2,477	2,435	2,219	2,200	
イ								
ウ								
エ								
オ								
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 高齢者が生きがいを持ち、自立と社会参加の推進を図る。 社会参加している高齢者数とは、シルバー人材センター会員数、老人クラブ会員数、老人趣味クラブ会員数、地域づくり事業ミニデイ等参加者数及び65歳以上の民生委員等とする。	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	
ア：社会参加している高齢者数			5,952	6,255	7,016	7,443	7,582	
イ：高齢者研修に参加し満足した割合			90.2	74.6	88.7	91.7	92.0	
ウ								
エ								
オ								
(2) 総事業費の推移		単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	657	732	716	615	0	
	事業費計(A)	千円	657	732	716	615	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	7	7	7	7	0
		延べ業務時間	時間	1,260	1,248	1,260	1,260	0
		人件費計(B)	千円	5,345	5,244	5,121	5,318	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,002	5,976	5,837	5,933	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	昭和60年に老人研修センターが開設され、事業が開始された。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	人口の高齢化が進む中、高齢者の健康づくりや生きがい対策は益々重要になっている。対象である老人クラブの減少や会員の高齢化が進んでいる。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	参加者からは、健康や教養の向上、または介護予防の面からも役立つと大変好評である。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 高齢者の健康増進や教養の向上は、高齢者の生きがいづくりに結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 高齢者の健康や生きがいづくり対策は公共の事業であり、市が行うのは妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市内の老人クラブ会員を対象にしており適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 高齢者の健康や教養の向上、レクリエーションの場が減ってしまい、高齢者の生きがい対策等に影響が大きい。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？ ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない 根本山老人憩いの家 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない 老人憩いの家は楽しみの場として、老人研修センターは研修の場として実施しているため、統合はできない。
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 講師謝金等の必要最小限の経費で行っている。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の人員で行っている。現行以下のサービスでは活動が困難になる。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市内全域の高齢者を広く対象とし、また昼食も実費負担であり、公正・公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							